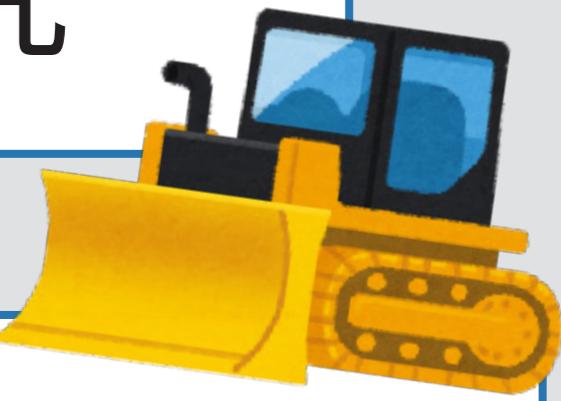




女子大学生の建設業界への就職に関する研究

論文 阿部研究室 A22AB022 大庫なみ



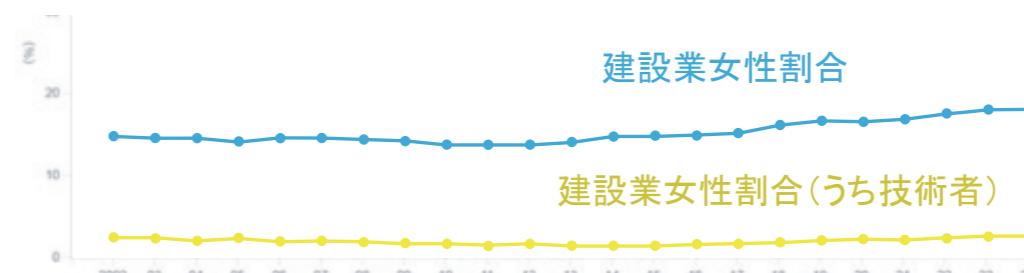
1. 背景・目的

建設業界の就職状況を調べてみると、女性比率は 18.2% と横ばいの状況であり、年齢構成を見ると、55 歳以上が 37% である一方、29 歳以下は 12% にとどまっていた。

これらの数値は、建築業界への若年層の参入が減少し、高齢化の傾向も見られ、そして女性の活躍も十分に進んでいないと読み取れる。女子大学生は業界も魅力も知らないのではないか。

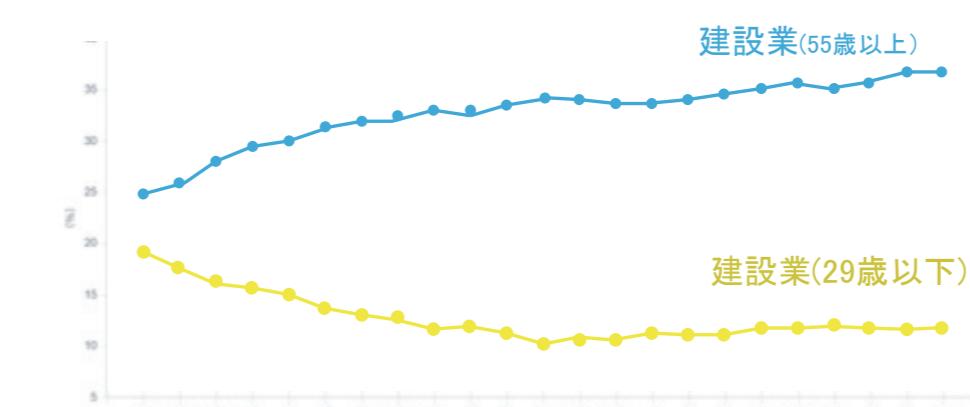
本研究では「女子大学生が建設業界への就職を視野に入れるためには、どのような“きっかけ”が有効であるのか」を明らかにすることを目的とする。

【表 1】就業者中に占める女性の比率



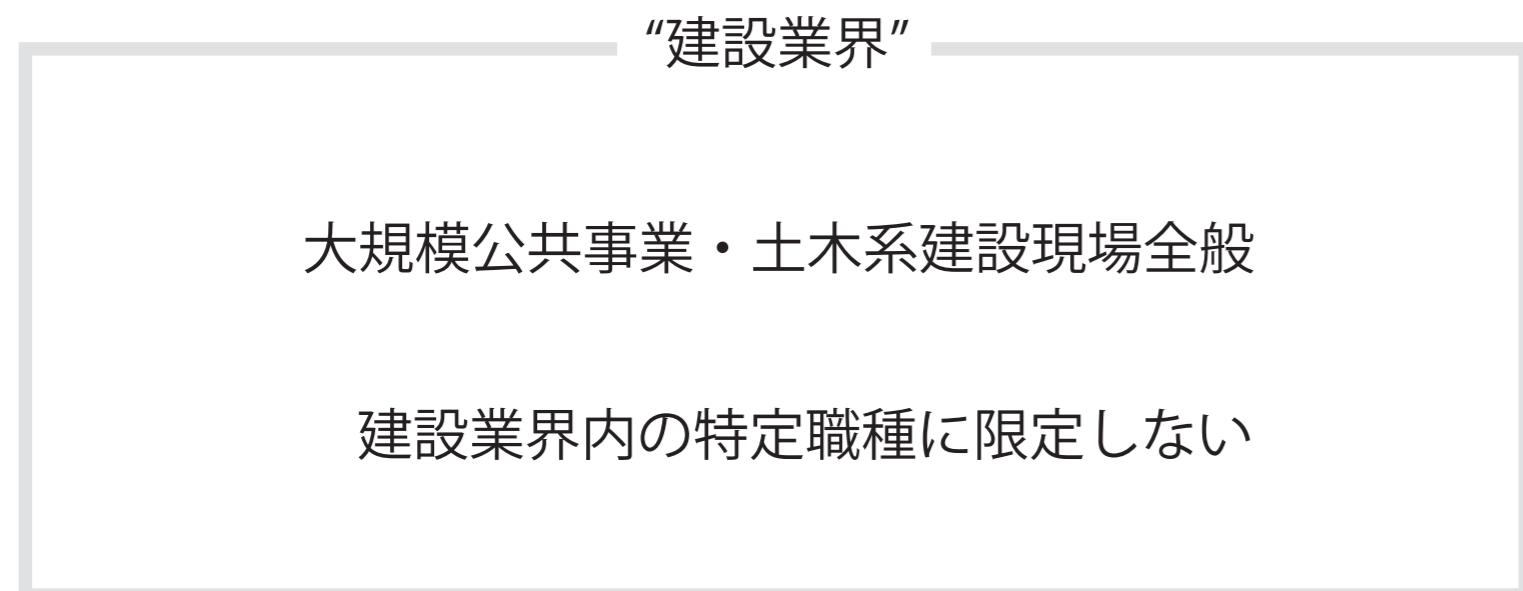
出典：4. 建設労働 | 建設業の現状 | 日本建設業連合会より、大庫作成

【表 2】建設業就業者の高齢化の進行



出典：4. 建設労働 | 建設業の現状 | 日本建設業連合会より、大庫作成

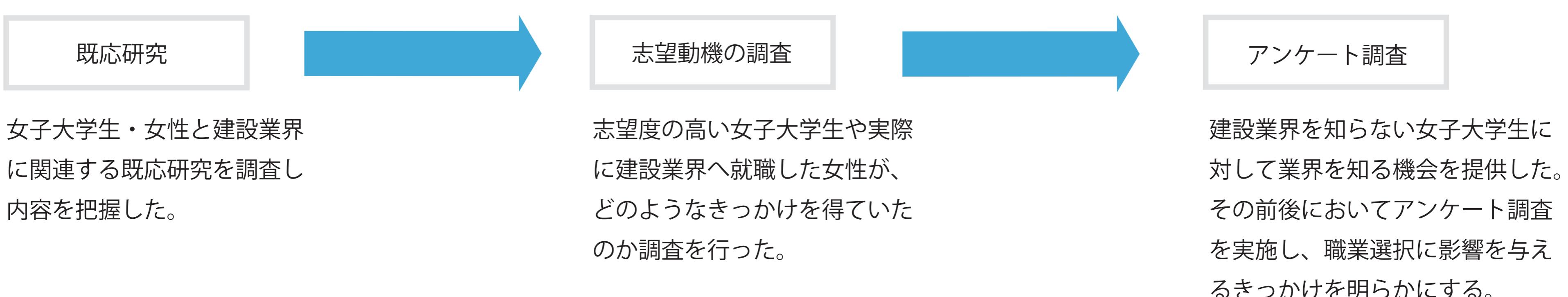
2. 用語の定義



論文構成

- | | | |
|----------------------|----------------------|---------|
| 1. はじめに | 3 志望度の高い大学生・入職者の就職動機 | 5. おわりに |
| 1-1. 背景 | 3-1 アンケートの内容 | 参考文献 |
| 1-2. 目的 | 3-2 学生の就職しようと考えたきっかけ | 謝辞 |
| 1-3. 方法 | 3-3 入職者の就職したきっかけ | あとがき |
| 1-4. 用語の定義 | 3-4 仕事のやりがい | |
| 2. 既応研究 | 3-5 考察 | |
| 2-1. 論文検索エンジンによる文献調査 | 4 建設業界に関する知識の有無と就職志向 | |
| 2-2. 考察 | 4-1 見学会の概要 | |
| | 4-2 アンケート調査 | |

3. 方法



4. 既応研究から分かったこと

CiNii と J-stage を使用し、以下のキーワードを組み合わせて既応研究を検索した。

「建設業」、「就職」、「女子大生」、「女子大学生」、「女性」。

既応研究から以下のことことが分かった。

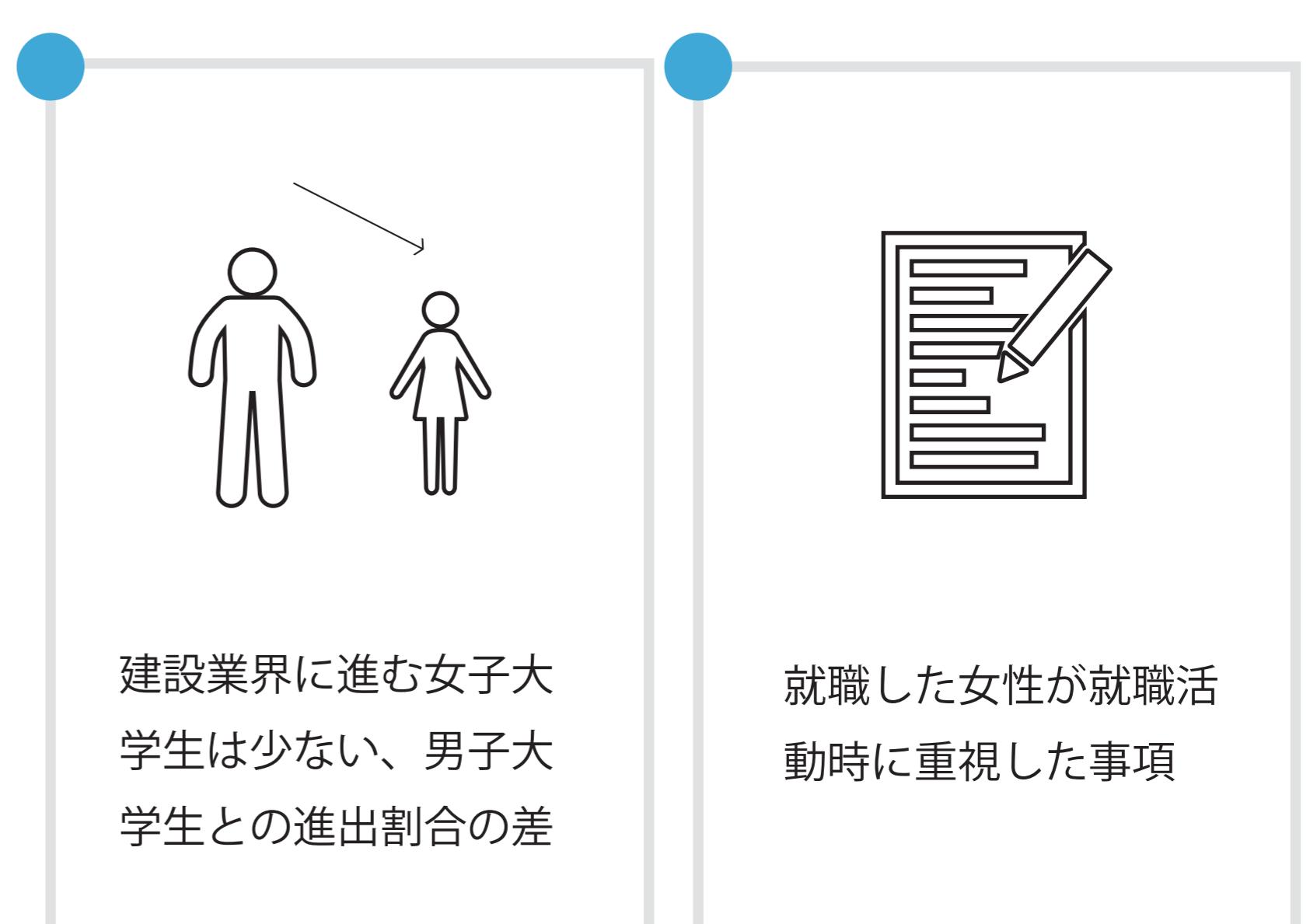
●長澤 夏子, 元岡 展久, 平田 京子, 石川 孝重「建築系大学卒業生の進路調査の経年分析」日本建築学会技術報告集 (44) 393-398 2014

●榎原 潤「建築系大学卒業予定者の進路調査から見た建築系教育の課題に関する一考察」日本建築学会計画系論文集 82 (734) 2017 1147-1115

●佐々木 友子 石垣文 角倉 英明「建設分野で働く女性技術者の労働実態に関する研究 働き方への意向に着目して」(45) 527-530 2022,03

→女性技術者になった人は、働く上で、「やりがい」が非常に大切な要素となることが分かった。

女子大学生を対象に建設業界に特化したイメージ調査や、職業選択に影響を与えるきっかけまでは明らかにされていないが、本研究と同じ視座のものは確認できた。



4. 調査から分かったこと

志望動機の調査から分かったこと

「あいち建設みらいサロン」に参加した帽山女子学園大学生活環境デザイン学科の学生を建設業界への志望度が高い学生とし、また、国土交通省中部地方整備局で働く女性を対象とした。

アンケートおよびインタビュー調査の結果、学生と入職者それぞれに多様な就職のきっかけがあることが明らかになった。

理由は一つではなく人との関わりを通じて業界を身近に感じる経験が、重要なきっかけとなっていることが明らかになった。

志望度の高い学生

- ・幼少期の好きなことや自分の名前から影響を受けた
- ・建設に関する専門的なことを学んだことに、アドバンテージを感じている
- ・建設業界を身近に感じることができる

入職者

- ・幼少期のものづくりへの興味
- ・大学での学び
- ・父の姿や先生からの助言、母の言葉、友人の存在



アンケート調査から分かったこと

アンケート調査では、建設業界をあまり知らない女子大学生を対象に見学会を実施し、見学前と見学後にアンケートを行うことで、建設業界に対するイメージの変化を比較・分析した。

②建設業界に対する女子大学生のイメージ

女子大学生は、建設業界に対して身体的負担の大きさや男女比率の偏りを懸念している一方で、社会貢献性や事業規模の大きさに対しては肯定的なイメージを抱いている。

③就職先として選択されにくい要因

一定数の女子大学生が建設業界（大規模公共事業・土木系建設現場の仕事）とりわけ、技術職の公務員就に対して十分な理解がないことから、具体的な就職先として選択していない傾向が見られた。

④見学会後の意識変化

見学会で得られた「仕事のやりがい」「働き方の柔軟性」「職場環境の多様性」に関する情報は、ネガティブなイメージを緩和し、肯定的な認識を強める要因となっていた。

⑤女子大学生の関心を高める要素

現地での体験や対話を通じて業界を理解することが、就職を意識するきっかけとして影響を与えていたことがわかった。現場体験に加え、現場以外の業務内容や、女性職員が実際に働く様子を見ることが認識の変化に寄与していることが分かった。



建設業界にどのような印象やイメージを持っていますか？

ネガティブ

- 力仕事や体力的に大変
- 暑い、大変そう
- 女性が少ない

ポジティブ

- 人々の暮らしや安全を支える
- 規模が大きい

建設業界（大規模公共事業・土木系建設現場の仕事）に興味・関心はありますか？

大規模公共事業という業界の仕事について理解が深まっていない
身近にある職業だけど詳しくは知らない、現場の方の実際の声なども聞いたことがない

見学を通じて、建設業界（大規模公共事業・土木系建設現場の仕事）の印象やイメージは変わりましたか？

堅いという印象が薄れた

女性でも働きやすい環境と印象が変わった

建設業界に対して、今後どのような情報や体験があればさらに興味を持てそうですか？（自由記述）

今日のような社会科見学的なものがあればまた参加したい。

内勤の人の働き方も知りたい

職員の1日とか普段の働き方を知れる機会がほしい

5. まとめ

本研究は女子大学生が建設業界への就職を視野に入れるにはどのようなきっかけが有効かを明らかにすることを目的とした。

女子大学生が建設業界を就職先として考えるには、人との関わりを含め、実際に見て・体験し、就業イメージを具体化できる過程が有効であることが明らかとなった。

アンケート結果より、女子大学生は業界も魅力も知らないのではないかという仮説は正しかった。

謝辞

本論文の作成にあたり、中部地方整備局・愛知県建設局・あいち建設みらいサロンの参加者の皆様から貴重なご協力を賜りました。心より感謝申し上げます。

参考文献

- ・建設労働 | 建設業の現状 | 日本建設業連合会「建設業デジタルハンドブック」
<https://www.nikkenren.com/publication/handbook/chart6-4/index.html>
(2025年11月27日現在)
- ・長澤 夏子, 元岡 展久, 平田 京子, 石川 孝重
「建築系大学卒業生の進路調査の経年分析」日本建築学会技術報告集 20 (44) 393-398 2014
- ・榎原 潤「建築系大学卒業予定者の進路調査から見た建築系教育の課題に関する一考察」
日本建築学会計画系論文集 82 (734) 2017 1147-115
- ・佐々木 友子 石垣 文 角倉 英明
「建設分野で働く女性技術者の労働実態に関する研究働き方への意向に着目して」(45) 527-530 2022,03